

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2009年12月24日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No.76】

警視庁捜査にJR総連と関係団体は大慌て！

松崎氏がJR総連国際交流基金の口座から3,000万円を引き出し、個人のリゾートマンション購入費等に充てたという業務上横領被疑事件は、「6・24判決」によれば、2003年6月、暴力行為事件に関して「目黒さつき会館」内を捜索し、JR総連などから多数の物件を差し押さえた際、当該口座に係る預金通帳が含まれており、これがきっかけで嫌疑が明らかになったということである。西岡研介著「マングローブ」の記述を基に解説すると、この暴力行為事件は、2002年6月にJR総連の役員3名が東京駅付近においてJR東海の助役を取り囲み暴行を加えたとするもの(後に不起訴処分)。警視庁公安部は、2003年6月の家宅捜索に続き、同年9月に日本鉄道福祉事業協会が持っていた貸金庫等を捜索したという。

松崎氏の息子は「さつき企画」社長を辞めハワイに移住！

そして「その3ヶ月後の03年12月、A(注:松崎氏の息子)はまるで公安部の捜査から逃れるかのように、家族とともに渡米。松崎が購入した、ハワイ州コナ氏の超高級コンドミニアムに移り住むのである。さらにその1ヶ月後の04年1月、Aはさつき企画の代表取締役も辞任している」ということだ(p.103)。この件について、松崎氏は「週刊現代裁判」で次の通り証言している(No.72参照)。

(被告代理人)なぜ(A氏は)2004年の1月に(さつき企画の社長を)辞めたんですか。(松崎)それはいろいろ騒ぎが起こされて、とくに分裂をしていったような方々が様々な誹謗中傷をやったり、検察公安部がいろいろ入ってきたということによる障害があったからだと思います。(代理人)どんな障害ですか。(松崎)それは、さつき企画にも公安がいろいろやってきて、嫌がらせ、妨害するであろうと、そういう思惑があったと思います。

松崎氏の言う「障害」とは、警視庁公安部による上記の捜索のことを指しているのだろう。さらに、「6・19判決」には裁判所による「認定事実」として次の通り記載している。

さつき会の会計処理は、ずさんであり、会計帳簿等の整理もされず、長年にわたり、不明瞭な会計処理がされていた。-(中略)-別件暴力行為事件(注:上記の東京駅事件)において、原告福祉事業協会や原告JR総連等から多数の関係資料が押収され、事情聴取を受けた関係者らから、公安当局が、関係団体間の資金の流れについて関心を有しているとの情報を得て、その捜査に対する対応のために、原告Y(注:現JR総連特別執行委員)は、平成15年10月18日、さつき会の事務局長に就任し、財政を調査した結果として、平成16年2月27日付け「さつき会の財務状況等に関する中間報告」を作成した。さつき会は、平成16年5月7日に開催された定期評議委員会の決議で解散したとされている。

なお、「さつき会」とは1987年に動労が解散する際に設立された法人格のない団体で、動労時代の役職員の退職金の債務なども継承されたという。

松崎氏の息子の海外移住や「さつき会」の解散など、警視庁の捜査に対し、何とも怪しい対応である。関係者の周章狼狽ぶりが表れており非常に興味深い。JR総連と関連団体の中でどのような対応がされていたのか、今後、じっくりと検証していくこととしたい。